



理事長 中村 英隆

盛夏の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。日頃、私ども遠賀信用金庫に対し、格別のご愛顧、お引き立てをいただき、誠にありがとうございます。

ここに平成22年度(第62期)の事業概況報告をお届け申し上げます。何らのご叱正、ご指導を賜れば幸甚に存じます。

さて、平成22年度のわが国経済は、20年9月のリーマンショック後、緩やかな回復過程にありましたが、本年3月11日の東日本大震災により、一挙に不透明感が拡がりました。新年度に入りましても、これまでのところ、事態の収束の見通しは依然確定しないままであり、わが国の経済、社会は、当分の間、予断を許さない状況が続くものと思われます。

こうした中、わが国の金融機関に強く求められているのは、お客さまのニーズにしっかりと対応できる経営の健全性、財務体質の充実であることはいまでもありません。おんしんは、これまで営々として積み重ねて参りました努力の結果、既に他にひけをとらない経営体質を達成したものと自負いたしておりますが、今後とも役職員一同、さらなる努力を続けて参ります。

平成22年度決算の詳細につきましては、本報告書をご高覧いただきたいと存じますが、要点について申し述べますと、

- (1) 内外ともに予断を許さない経済状況の中であって、前年度を上回る、約3億4千万円の当期純利益を計上しました。
- (2) 地元経済への貢献度ともいべき預貸率(預金に対する貸出金の比率)は、65.20%と、引き続き業界平均を大きく上回りました。
- (3) こうした積極的な貸出姿勢の維持にもかかわらず、不良債権比率は5.80%と、低い水準にとどまりました。
- (4) この結果、金融機関の健全性を示す自己資本比率は13.81%とさらに向上し、国が定める基準(4%)の3倍を超えています。
- (5) 以上を踏まえ、会員の皆様への出資配当は、本年度も業界の最高水準である8%を維持しました。

なお、おんしんはかねてより、町内会的金融機関を目指して「スモール・イズ・ナイス」を合言葉に、地域に密着した諸活動を展開しておりますが、このたび、各方面から以下のとおりの顕彰等をいただきました。(詳細は本報告書をご覧ください)

- (1) 金融担当大臣からの「個人ローン取組」についての顕彰。
- (2) 全国信用金庫協会からの「信用金庫社会貢献賞」。
- (3) 監督官庁である福岡財務支局長からの「個人ローンの取組」についての顕彰。

冒頭に申し述べましたとおり、わが国の経済社会は、当面予断を許さない状況が続き、とりわけ、地方経済、中小企業は非常に厳しい局面に立たされることも予想されます。そうした状況であればこそ、私どもおんしんは役職員一丸となって、ふるさとの経済社会を守り抜くため、渾身の努力を傾注する所存でございます。

今後とも、遠賀信用金庫に対し、格別のご支援ご鞭撻を賜りますようお願いいたしますとともに、皆様のご繁栄、ご健勝を心よりお祈り申し上げまして、ご挨拶といたします。

平成23年7月